

地区番号:6 地区名:初倉

NO.1

分類:A-1 支配-領知

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形 態	数 量	箱 番 号
近世512	A1	欠(江戸時代)6月4日	欠(新政府への勤替え)	加餘十郎 木勘介 平四郎	なし	元勘定所勤めの者は民政裁判所の勤務に移行すべき旨のお触れ	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世513	A1	欠(江戸時代)9月13日	覚 横帳綴りの断片	郡奉行	なし	秋元但馬守様内の五十桜様を養子にもらい受ける件がととのったのでその旨通知する。	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世514	A1	欠(江戸時代)	欠(廻状)	なし	なし	村絵図、反別帳の提出、元禄以後名称変更の場所、村名等も理由を添えて提出せよとの廻状	飯塚家文書 中河	原	状	1	45

分類:A-2 支配-法令

近世515	A2	文政9(1826)成年12月	定	中泉御役所	なし	有宿、無宿者に限らず、長脇差を帯したり、槍、鉄砲を持ち歩くことは厳禁をする、という定め		原	状	1	45
近世516	A2	文政9(1826)成年	定	中泉役所	なし	長脇差を指帯び、槍・鉄砲など持ち歩く者の取締り		原	状	1	45
近世620	A2	天保8(1837)酉年12月	御請書之帳 北河原新田	名主:三郎兵衛、五郎右衛門、外組頭・百姓代と百姓37名連印	中泉御役所	近来、無宿者等の不審者が村内に入り込み、往来の旅人や村人に難題を申し掛けるので取締や訴えを厳しく実施するように仰せ付けられたが、確かに実行する	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世517	A2	天保9(1838)成年8月	御役所御触書御普請所返一条小前 請印帳	惣兵衛外57名連印	なし	この度の改革で発布されたお触書を書き上げ、必ず守るべきことを約すまた、普請所の村内箇所の改め番を1番〜24番まで記載	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世518	A2	天保12(1841)丑年7月	御請書 北河原新田	名主:五郎右衛門、三郎兵衛 組頭:新兵衛、百姓代外惣百姓連印	中泉御役所	1. 本田、畑への甘蔗、砂糖等の作付け禁止 2. 質素、儉約の励行等の法令を書き写す	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世519	A2	安政6(1859)年10月17日	覚(廻状)	郡奉行	なし	神事、祭礼等、人寄せ鳴物はこれまで一切禁止していたが、今日より解禁する、との廻状	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世520	A2	欠(江戸時代)6月	覚(横帳の断片)	地方御用達	なし	1. 村の古荒帳面、畑田成、新田畑、切添のことに付き、説明するので出頭せよ 2. 日照続きに付き、小笠にて雨乞い実施。一村1〜2人ずつ出頭せよ(廻状)	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世521	A2	欠(江戸時代)7月	覚(横帳の断片)	郡奉行所	なし	新に吹き直した式分判は28日より通用。以前からの小判、壱分判、貳朱金等と差別なく通用させること。・廻状(荒地地検分の件)	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世522	A2	欠(江戸時代)	覚(先触)	嶋田郡政方 小島柳	欠	郡政役人が、潰れ家、並木損木等の検分に村々を巡回するので、人足1名を差し出すこと	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世523	A2	明治3(1870)庚午年9月21日	前欠(廻状)	郡政御役所	なし	現石(米)20分の1を当午年より5年間貯蓄させる、富商や豪農には、これ以外の貯蓄増加を依頼する。	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世524	A2	明治5(1872)壬申年3月9日	欠	浜松県掛川出張所	なし	鉄砲取締規制に付き3カ条にわたり通達	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世525	A2	明治5(1872)年	御触書写(壬申9月6日より)	浜松県出張所	各区戸長	醸造等免許申請、廻状、牢逃者の人相書等の御用留め書き		原	縦	2	45

分類:A-3 支配-治安

近世526	A3	天保8(1837)酉年12月5日	御請書小前連印帳	北河原新田名主:三郎兵衛、五郎右衛門、惣百姓連印	中泉御役人	近来、無宿者や不埒な足軽が村々を横行。用心して役所に申し出よ、との御触れに百姓承知。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世527	A3	天保11(1840)子年	差上申一札之事	高木市太郎知行所初倉村藤左衛門外3名、上河原、北河原、大柳各名主	御普請御掛り御役人中様 下山慎平様	当子年、大井川出水検分の為、巡見使お越し、その節、各村役人は村境まで出迎え、案内することになっていたところ、手違いで出迎えせずお叱り、その詫び状	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世528	A3	安政6(1859)年7月11日	覚(廻状)	郡奉行所	村々庄屋・百姓	近年、駿遠両国村々へ、無宿者が入り込み、博打また長脇差で恐喝、押領が流行している。彼らを村方で差押え、代官所へ突き出せ。(御用留の断片)	増田家文書 湯日	原	状	1	45
近世529	A3	安政6(1859)年	廻状	なし	なし	松平大膳大夫家来の福原越後が多人数で武器を携え上京し御所へ乱入。彼等の探索を村々へ指令。	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45

地区番号:6 地区名:初倉

NO.2

分類:A-3 支配-治安

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世530	A3	欠(江戸時代)7月23日	覚(横帳の断片)	地方御用達	なし	町方の者の竹木請負は、まず役場に申し出る。人の名前付けについては、寅次郎様と同名にしないように申し付ける。	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世531	A3	欠(江戸時代)	覚(横帳の断片)	欠	欠	甲州巨摩郡東向村の忠兵衛を殺害した養子久平の人相書について	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世532	A3	欠(江戸時代)	欠	欠	欠	長脇差を帯び、狼藉をする者などの取締について		原	状	1	45
近世533	A3	明治年間未年2月3日	覚(横帳綴りの断片)	なし	なし	昨年の検使の書類へ村人が押印すべきことを伝達	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45

分類:B-1 土地-検地

近世534	B1	寛文12(1672)壬子年10月	遠州榛原郡北河原新田御検地帳 案内 五左衛門	万年七郎左衛門代 加藤平兵衛 寺島八太夫	なし	表紙に「紙数38枚」とあるが、当帳は3枚のみで、田畑屋敷の合計反別と分米しか書いていない。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世535	B1	天保7(1836)申年4月	高反別書上帳 (北河原新田写)	北河原新田名主:三郎兵衛 五郎 右衛門 外三役	中泉御役所	高42石2斗4升7合 本田、新田を検地年代と共に書付ける	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世536	B1	慶応2(1866)年	当寅荒地反別取調書上帳(下) (上湯日村)	なし	なし	各百姓ごとに、田畑・等級・反別・分米等を記載		原	縦	1	45
近世537	B1	明治3(1870)午年10月	高反別字散田付写	北河原新田村役人	常平倉御役所	本文書は、北河原新田の高辻の内、飯塚純次郎の持ち地分を記載	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世538	B1	明治6(1873)酉年1月	乍恐以書付奉願上候	北河原新田百姓代 松本惣吉 外3名	岩崎浜松県参事	田園代価取調べを命ぜられたが、その遅延のお詫びを書付ける	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世539	B1	明治7(1874)年9月	遠江国榛原郡北河原新田田畑荒地 反別取調帳	北河原新田区長:飯塚純次郎 副 戸長:田代備平・田原嘉吉	林浜松県令	新田畑の荒地を記載 石盛は7斗	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45

分類:C-1 貢租-年貢

近世540	C1	文政7(1824)申年10月	御年貢皆済目録御免定(下)写 北河原新田	竹垣庄藏	北河原新田	皆済目録と可納割付状を村方で写したもの	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世541	C1	文政11(1828)子年10月	子御年貢可納割付之事 遠江国榛原郡北河原新田	なし	平岡彦兵衛	高43石4斗9升(虫食い著しい)	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世542	C1	嘉永6(1853)年	免割合帳	欠	欠	(襖の下張りをはがして集めたもの・不揃い)	増田仁一家文書、湯日	原	縦	1	45
近世543	C1	安政6(1859)年9月26日	覚	大場市郎右衛門・森下為八	各村々	当未年貢米は川崎湊の藤十方に納入すること。俵数を間違えないようにすること	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世544	C1	元治元(1864)年10月吉日	子御年貢米取立帳 上湯日村	なし	なし	各百姓ごとに一人ひとり年貢米を記載		原	横	1	45
近世545	C1	元治元(1864)子年11月	当子御年貢米皆済目録	上湯日村組頭:藤兵衛 外2名	小林良平	年貢米222俵皆済の届書		原	状	1	45
近世546	C1	欠(江戸時代)	覚(襖の下張りの断片)	なし	略	年貢納入の徹底、年貢米は川崎湊の七左衛門宅に集める、新待賢院逝去につき鳴物使用停止、等を書付ける	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世547	C1	欠(江戸時代)	御上米津出覚	なし	なし	津出しの俵数とその人名を、日を追って記載		原	横半	1	45
近世548	C1	慶応2(1866)年10月	下合場所皆無共御引方調帳 上湯日村	なし	なし	場所・反別・取米を各百姓ごとに記す	増田仁一家文書、湯日	原	横	1	45
近世549	C1	明治2(1868)巳年12月	寅・卯・辰の御年貢米書上	上湯日村組頭:半平、清藏、外1 名	御役所	実際の上納米は寅・卯・辰年と、徐々に減少している。その実情を書き上げる。	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45

地区番号:6 地区名:初倉

NO.3

分類:C-1 貢租一年貢

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世550	C1	明治2(1869)巳年9月	去辰御年貢米四斗入	北河原新田名主:三右衛門、米見:純治郎、升取:嘉吉	なし	年貢米は4斗入に改めたことを、名主、米見、升取役が確認して押印		原	切紙	10	45
近世551	C1	明治2(1869)巳年9月	欠(年貢米納入方法の通知)	北河原新田名主:三右衛門外 2名	欠	去る辰(明治元年)の年貢米は4斗入に改める		原	状	1	45
近世552	C1	明治3(1870)年11月	丑御年貢米取立帳 島田御持場上湯日村	なし	なし	村の総納高、各百姓の納米高を記載		原	横	1	45
近世553	C1	明治4(1871)辛未年	(袋表)辛未貢米割賦帳・壬申貢米割賦帳・明治八年戌年貢納切符入外	なし	なし	袋の中には「貢租米預り証」、「米津出(川崎)金銭受取証」、年貢切手類等多数入っている。また、標題とは無関係と思われるものもある。	飯塚家文書 中河	原	袋入	1	45
近世554	C1	明治6(1873)年12月	酉貢米割賦控帖 北河原新田	なし	なし	米穀とその割当て人物名を列挙	飯塚家文書 中河	原	横	1	45

分類:C-2 貢租一課役

近世555	C2	欠 4月8日	口上	初倉茂右衛門	北河原新田 新兵衛	御分間入用の割付け差し上げの件につきその遅延を詫びる	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
-------	----	--------	----	--------	-----------	----------------------------	-------------	---	---	---	----

分類:D-1 村制・戸口・村概況

近世556	D1	天保2(1831)卯年2月	高反別明細帳控	なし	なし	北河原新田高43石4斗9升(表高) 文末に「御尋に付書付け」とあり、村の様子を記載する		原	縦	1	45
近世557	D1	天保6(1835)未年3月	上書 当未家数人別増減書上帳	名主 外三役(人名なし)	中泉御役所	去午年と今年未年の家数人別を書き上げ、差し引き比較して増減を示す	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世558	D1	天保9(1838)戌年4月	村差出明細帳 大井川西側通北河原新田	名主:五郎右衛門、三郎兵衛、組頭:五郎右衛門、百姓代:勘兵衛	御巡見御役人中	本田、新田、屋敷、反別、石盛、検地時期、家数、人数等を記載	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世559	D1	天保9(1838)戌年10月26日	欠(御尋に付書上)	なし	羽田龍助	岩の目方と、人足数等を記載		原	縦	1	45
近世560	D1	なし(江戸時代)	村差出明細書上帳	なし	なし	高反別・江戸、中泉代官所への距離、川除堤の長さ等を記載	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世561	D1	明治8(1875)年2月	欠(お尋ねに付き書き上げ)	北河原新田戸長:飯塚純次郎	林浜松県令	村の石高、反別を、宝暦5、宝暦13、明和8、安永3年につき書き上げ	飯塚家文書 中河	原	状	1	45

分類:D-2 村制・戸口・村政

近世562	D2	文政10(1827)亥年9月吉日	懐中帳	なし	なし	備忘録(元禄5年から延享4年までの北河原新田支配役人等をメモ)		原	横半	1	45
近世563	D2	天保13(1842)寅年8月	村方諸帳面相渡帳	当村(谷口村)七太夫	同所村役人中	七太夫は当村の庄屋であるが、不行き届きにより組頭の喜太夫がこれを代行するので、当村が保持する諸帳面は喜太夫に渡される、その諸帳面内容を記載。		原	縦	1	45
近世564	D2	嘉永3(1850)戌年5月	村方諸帳面請取帳	谷口村組頭:新八、佐右衛門、要作、六郎左衛門、百姓代:勘助	同村:伝十	村方で保有の諸帳面(五人組帳・宗門帳・名寄帳等)の請取について		原	縦	1	45
近世565	D2	安政6(1859)年3月2日	覚(廻状)	郡奉行所	村々庄屋・百姓	神奈川・長崎・箱館の3湊が追い々開港になり、この場所に出稼ぎ・移住の者には、その湊の役人に引き合わせることに ついて記載(御用留の断片)	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世566	D2	安政6(1859)年5月15日	覚(廻状)	郡奉行	各村々	今井貴作が代官役に就任したので、この旨を廻状で周知させる	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45

地区番号:6 地区名:初倉

NO.4

分類:D-2 村制・戸口-村政

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世567	D2	安政6(1859)年12月26日	覚(廻状)	郡奉行	村々庄屋・百姓	内藤紀伊守様御養の玉振院様が病氣にて逝去。来る2日までは鳴物を停止する(御用留の断片)	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世568	D2	安政6(1859)年	欠(廻状)	織本兵八	各村々	今度、中泉代官所より廻方が巡回するが、村で休泊する場合は木銭、米代は当役所で払うことにする。(御用留の断片)	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世569	D2	安政6(1859)年	覚(廻状)	郡奉行	なし	殿様が9月に着城するので、火の元には特に注意すること。(御用留の断片)	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世570	D2	慶応2(1866)寅年3月	乍恐以書付奉願上候	上湯日村組頭:半平	名波門(以下虫食い)	従来用いていた印鑑紛失につき、書面に押印の印鑑使用の許可を求める		原	状	1	45
近世571	D2	欠(江戸時代)寅年4月	乍恐以書付御慈悲願奉申上候	大日村百姓平六頃に付倅平次郎外4名	御役所	私共心得違いにて、先般異義申し立てをしたことで訴訟となり手鎖、宿預かりとなったが、改心したので許して欲しい	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世572	D2	欠(江戸時代)未年7月	御先触	細嶋村名主	谷口村より北河原まで	御普請役兩人が当村を出立。これより北河原村に向かうのでその旨通知する。そのうち一人は北河原村に泊りとなる。		原	状	1	45
近世573	D2	明治2(1869)己巳年	差上申一札之事	上湯日村組頭:清右衛門 半蔵外1名	堀の内(以下欠)	宗門改めについてのこの条目、間違いなく惣百姓に読み聞かせたことを申告する	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世574	D2	明治3(1870)庚午年7月	欠(廻状写し)(綴りの一片)	島田御役所	村々役人	高反別帳取調べについて、早々差し出すようにとの廻状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世575	D2	明治3(1870)庚午年11月4日	欠(廻状写し)(綴りの一片)	太政官御役所	なし	山林・不毛地・荒地を開発して桑・茶の植付けを奨励 従来から実施していた伝染病予防の為の開港場での入船検閲は解除となる	増田仁一家文書 湯日	原	状	2	45
近世576	D2	明治3(1870)庚午年12月	当午御蓄積高並蓄積高小割合取立帳 上湯日	なし	なし	百姓各々ごとに書き上げ	原-17	原	横	1	45
近世577	D2	明治3(1870)庚午年	欠(廻状の写し)(綴りの一片)	島田御役所	村々役人	穢多・番非人については、乞食非人取扱方の不都合又は何かの所業ある場合は役人が糺明すること。郡役所前に腰掛けを置くので来庁者はここで待機。	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世578	D2	明治4(1871)年8月	欠(綴りの断片)	欠	欠	穢多・非人の呼称の廃止につき、従来より居住する地・田畑・山林等を色分けして図面に提出すること	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世579	D2	欠(明治初年)	欠(廻状の写し)(綴りの断片)	欠	欠	村々の年貢は郷蔵に収納して勤番組に渡すことになっているが、それを無視していることは許せない。8月1日より検分者を差向けて調査するのでそのつもりで	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世580	D2	欠(江戸時代)	差上申五人組手形之事(後欠)	欠	欠	年貢・親孝行・宗門等について記す		原	状	1	45
近世581	D2	明治3(1870)年6月	欠(廻状写し)(綴りの断片)	島田御役所	村々役人(上湯日村留めになっている)	各藩士が山林、田畑を譲り受けて農業をすることはすでに許可したが、この者達は村役人の指揮下に入り、また、その村法を守ることを通知する。	増田仁一家文書、湯日	原	状	2	45

分類:D-3 村制・戸口-村入用

近世582	D3	天保9(1838)戌年正月	下瀬一条諸入用貸付帳 北河原新田新兵衛控	世話人:源兵衛、惣兵衛、伝右衛門	なし	村の出費とその要用を記載		原	横	1	45
近世583	D3	天保10(1839)亥年1月	乍恐以書付奉願上候(下書)	金谷上川より川尻までの村々	なし	大井川通定式普請の目論見仕立等で役人が出張して来る折り、その休息・宿泊の賄いについては、村方困窮の折から今年から3年間、高割にしてみたい。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世584	D3	文久3(1863)年正月吉日	亥日記不帳(虫食い多し)	欠	なし	年中村取替え、水夫方取替え、組合別取替え、金銀貸付け、外日記	飯塚家文書 中河	原	横半	1	45

地区番号:6 地区名:初倉

NO.5

分類:D-3 村制・戸口・村入用

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世585	D3	慶応3(1867)年12月	卯村入用割合帳	欠	欠	略 襖の下張りをはがして集めたもの	増田仁一家文書 湯日	原	横	1	45
近世586	D3	欠(江戸時代)年8月17日	覚	七太夫	小津六郎右衛門	米倉代官の到来につき、あらかじめ費用分担を決める	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世587	D3	欠(江戸時代)年11月13日	欠(覚)	西川治左衛門	なし	貸出金、貸出夫食を返納する場合、20日に取り立てることになるので、村の代表が持参のこと。また、普請積立金辰年分も掛川西町小左衛門方に持参せよ。	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世588	D3	欠(江戸時代)	欠(金銭出納簿)	なし	なし	初倉地区の各村への金銭割付け、出費内容等を記載		原	横	1	45
近世589	D3	欠(江戸時代)	なし(雑貨費覚綴り)	なし	なし	支払い先とその金額、「覚」では各村分担の金高を記載	飯塚家文書 中河	原	横	1	45
近世590	D3	明治3(1870)庚午年12月26日	御蔵人足扣帳 北河原新田	なし	なし	人足代金と氏名、諸品代金と支払い先等を記載	飯塚家文書 中河	原	横	1	45
近世591	D3	明治4(1871)年12月	未米入用割合取立帳 上湯日	なし	なし	村の支出項目と百姓からの取立高を列挙		原	横	1	45

分類:D-4 村制・戸口・戸口

近世592	D4	弘化5(1848)申年3月	遠江国榛原郡初倉村宗門人別御改帳(扣)	名主:庄太夫、茂一郎、組頭:与太夫、新五郎、惣右衛門	匂坂上村御役所	宗門改帳の他に、他出御改帳、牛馬御改帳が綴込まれている		原	縦	1	45
近世593	D4	安政4(1857)巳年正月	送り一札之事	宮城巖之助知行所 下湯日村下組名主代 庄九郎	上湯日村 御庄屋中	本村忠兵衛の娘”のえ”が御村の新作の妻に内縁決定につき人別送り状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世594	D4	安政4(1857)巳年2月	為取替一札之事	大草太郎左衛門御代官所 金谷河原町名主喜右衛門	太田撰津守上湯日御役人中	御村孫兵衛の娘”その”が当村九兵衛の妻に内縁決定につき人別引取状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世595	D4	安政5(1858)午年正月	送り一札之事	増山河内守領分神之取村組頭 与三郎	太田撰津守領分上湯日村惣代中	本村の五郎右衛門の娘”いわ”と御村の八三郎との間に縁談成立につき、人別送状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世596	D4	安政5(1858)戊年	差上申一札事	上湯日村惣代:清右衛門、半平、藤兵衛	青木大助 古沢武兵衛 兼子俊蔵	この度宗門改めを命ぜられ、調査した結果、男女共に異常なし	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世597	D4	安政5(1858)戊年	遠州榛原郡上湯日村五人組帳	惣代:藤兵衛、半平、清左衛門	欠	※前文はない。横帳。散逸して部分的に残存。安政3年のものも表紙のみ存在。	増田仁一家文書 湯日	原	状	4	45
近世598	D4	安政5(1858)戊午年	遠州榛原郡上湯日村五人組帳	欠	欠	※襖の下張りにしてあったものを剥がしてまとめたものであるが、そのごく一部を集めたもの。(前、中、後欠)	増田仁一家文書 湯日	原	横	1	45
近世599	D4	安政5(1858)戊午年	禰宗宗旨御改判形帳 榛原郡上湯日村	欠	欠	※前、後欠 襖の下張りを剥がして集めたもの	増田仁一家文書 湯日	原	縦	1	45
近世600	D4	安政5(1858)戊午年	浄土宗宗旨御改判形帳 榛原郡上湯日村	欠	欠	※襖の下張りを剥がして集めたもの	増田仁一文章 湯日	原	縦	1	45
近世601	D4	安政6(1859)年	覚	欠	欠	例年の通り、宗門改の徹底を命ぜられたことを記す ※御用留の断片	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世602	D4	安政7(1860)申年正月	宗門送り一札之事	太田備中守領分 上湯日村惣代 半平	松平和泉守様御領分城東郡 富田村(後欠)	当村久蔵の娘(19歳)”えひ”が富田村の清蔵の妻になる。その人別送り状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世603	D4	安政7(1860)申年正月	取替申一札之事	太田市太郎知行所三亀ヶ谷村名主:四郎兵衛	太田備中守様御領分 上湯日村御庄屋中	当村嘉十が御村の養子になるにつき、人別送り状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世604	D4	安政7(1860)申年正月	為取替書之事	大草主膳知行所谷口村名主:六郎左衛門	尾川村御役人中	尾川村の龜右衛門の娘”そめ”が当村の政右衛門の妻に縁組決定する。その為の人別引取状	山田・天野原-89	原	状	1	45
近世605	D4	安政7(1860)庚申年	遠州榛原郡上湯日村五人組帳 酉年右帳2冊用置候	欠	けつ	襖の下張りを剥がして集めたもの(前、後欠)	増田仁一家文書 湯日	原	横	1	45

地区番号:6 地区名:初倉

NO.6

分類:D-4 村制・戸口・戸口

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世606	D4	万延2(1860)酉年正月	為取替一札之事	太田備中守領分上湯日村惣 代半平	宮城巖之助様知行所下湯日村御庄屋中	御村の幸蔵が当村の八右衛門の養子に内縁決定。そのための人別引取状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世607	D4	文久3(1863)亥年正月	為取替一札之事	川上猪太郎御代官所 榛原郡大代村名主 甚兵衛	欠	御村の五郎右衛門娘”いり”が当村の七兵衛の妻に内縁決定。そのための人別引取状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世608	D4	文久3(1863)亥年正月	為取替一札事	太田総次郎城下掛川新町庄屋:仙助	上湯日村組頭:清右衛門	上湯日村の文吉が新町の久助の養子に内縁。その為の人別送り状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世609	D4	文久3(1863)癸亥年	遠州榛原郡上湯日村五人組帳	小前惣代:藤兵衛、半平、清右衛門	なし	※襖の下張りを剥がして集めたもの	増田仁一家文書 湯日	原	横	1	45
近世610	D4	元治元(1864)子年8月	書替一札之事	増山津島守領分神取村組頭:与三郎	太田惣治郎様御領分 上湯日村御庄屋中	御村長五郎の娘”つな”(13歳)[すでに実家にて居住]は当村の代四郎方と内縁関係にあったが、離縁となる。その為の人別送り状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世611	D4	元治2(1865)丑年正月	為取替一札之事	増山対馬守領分 上五郎新田庄屋:俊助	上湯日村御村役人中	当村官蔵の娘”ま寿”が御村の重兵の妻となるにつき、人別送り状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世612	D4	元治2(1865)丑年正月	取替一札之事	太田総次郎領分 上湯日村組頭:半平	伊奈半左衛門御代官所 北河原新田御庄屋中	北河原新田の与七(23歳)が上湯日村の辰五郎の養子となる。そのための人別送り状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世613	D4	欠(江戸時代)	差上申五人組手形之事	欠	欠	襖の下張りを剥がして集めたもの 不揃い	増田仁一家文書 湯日	原	縦	1	45
近世614	D4	欠(江戸時代)	浄土宗宗旨御改判形帳 榛原郡上湯日村	欠	欠	金谷宿河原町専求院関係のもの 襖の下張りを剥がして集めたもの	増田仁一家文書 湯日	原	縦	1	45
近世615	D4	欠(江戸時代)	宗門送り一札之事	欠	欠	禪宗養勝寺関係のもの 襖の下張りを剥がして集めたもの	増田仁一家文書 湯日	原	縦	1	45
近世616	D4	欠(江戸時代)	人別引取一札之事	欠	欠	御村の弥五郎が当村の喜三郎の養子になるにつき、人別引取状(紙面下方破損・後欠)	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世617	D4	明治3(1870)午年2月	欠	島田郡政御役所 下湯日村組頭:与兵衛	同御支配所 上湯日村御庄屋中	前欠 人別引取状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世618	D4	明治3(1870)午年3月	送り一札之事	御国支配中里村名主:弥十郎	嶋田郡政御掛持場 御庄屋中	当村の半四郎の娘”しげ”が御村伴十方へ内縁につき、人別送り状	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世619	D4	明治6(1873)年	第3大区23小区戸籍簿 北河原新田	なし	なし	身分、戸主職業、家族名前、年令を記載	飯塚家文書 中河	原	状	1	45

分類:E-1 諸産業-農業

近世621	E1	文政12(1829)丑年5月晦日	田苗植付覚	飯塚大作昌頼(筆)	なし	田植え付けの場所を日を追って記載	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世622	E1	天保3(1832)年	覚	なし	なし	稲刈とその収量等を日を追って示し、10月末日に”仕舞”と記されている	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世623	E1	天保5(1834)午年12月	甘蔗作付凡調書上帳 北河原新田	なし	なし	田方と畑方とに分けて記載される。		原	横	1	45
近世624	E1	慶応3(1867)卯年4月吉日	散田米並貸付金共取立帳	欠	欠	襖の下張りを剥がしてとり集めたもの 不揃い	増田仁一家文書、湯日	原	横	1	45
近世625	E1	欠(江戸時代)	家伝農業全作書	なし	なし	冒頭に、農業の秘法を子孫に伝え、普くこの書を用いて農業に励み、家を榮えさせるように、との注がある。		原	縦	1	45

分類:E-3 諸産業-入会

近世626	E3	天保15(1844)辰年10月	議定書之事	色尾、谷口、岡田、南原各庄屋連中	なし	入会、秣場についての申し合わせ		原	状	2	45
-------	----	-----------------	-------	------------------	----	-----------------	--	---	---	---	----

地区番号:6 地区名:初倉

NO.7

分類:E-4 諸産業-林業

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世 627	E4	慶応3(1867)丁卯年3月	御林山諸掛扣帳	なし	なし	金子渡方名前と金額を月日を追って記載	原-14	原	横	1	45
近世 628	E4	慶応4(1868)辰年2月吉日	御林山諸掛扣帳	なし	なし	支出のありようを具体的に記載	原-15	原	横	1	45
近世 629	E4	欠(江戸時代)9月7日	承り状	しまだ 鉄蔵	北河原新田 飯塚新兵衛	注文の木筏、外材木類の送り状。他に鑑札8枚の借用を求める	飯塚家文書 中河	原	状	1	45

分類:E-6 諸産業-畜産

近世 630	E6	天保15(1844)辰年10月	借用申金子之事	借主:長蔵 外1名	新兵衛	作牛買入のため、金1両を借用。質物は田地、利息は、年1割5分、同年暮れまでに返済を約す		原	状	1	45
-----------	----	-----------------	---------	-----------	-----	---	--	---	---	---	----

分類:E-8 諸産業-工業

近世 631	E8	安政5(1858)年2月	乍恐以書付(奉願上候)	下湯日村 桶師 増蔵	桶師頭(彦)兵衛	ご用の細工については指示のあり次第勤める。なお、普請方のご法度に背かないことを誓う		原	状	1	45
-----------	----	--------------	-------------	------------	----------	---	--	---	---	---	----

分類:F-1 商業-一般

近世 632	F1	天保6(1835)未年7月(閏)	覚	北河原新田持主 常蔵	大竹伴兵衛	脇差し身一本(鞘入)を金2分にて売渡し、代金請取り。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 634	F1	欠(江戸時代)1月11日	前欠(廻状)	御役所	なし	薬用として売買する場合、その都度薬店または医師から品位、量目を役所に申しでること。外国から取寄せる場合も同じである。	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世 635	F1	欠(江戸時代)正月	覚	吟蔵	門久屋お客様	注文諸品の渡し状	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 636	F1	欠(江戸時代)2月16日	覚	中泉:松田屋良介	北河原新田:新兵衛 外1名	立て替え金子の請取証	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 637	F1	欠(江戸時代)9月	覚(横帳綴りの断片)	郡奉行	なし	江戸で大風雨があり、林木や諸色が払底。これが解消されるよう商人からの注文があり次第積み送れ、但し、運賃のつりあげは許さない。	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世 638	F1	欠(江戸時代)戌年10月	相場書(袋) 覚(書状)	北河原新田与頭:新兵衛	御普請御掛り御役人中	当時の米銭の相場 白米:1升=148文、金1両=銭6貫900文	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 639	F1	欠(江戸時代)未年12月15日	覚	山前孫七	庄屋:飯塚	金10両、扶持、結城代金の請取り		原	状	1	45
近世 640	F1	欠(江戸時代)寅年	覚	雑貨屋源十	北河原新田御役人中	村内各々の注文の受け渡しの物品(無記入にて不明)数を記載	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 641	F1	欠(江戸時代)	(書簡)	駿州清水播磨屋与七	飯塚新兵衛	新年のあいさつと初相場の状況を報せる	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 642	F1	明治4(1871)辛未年正月11日	銭買入払方以渡方扣	飯塚純次郎扣(表紙)	なし	辰(明治元年)より巳(明治2年)迄の総払金額と、その内訳を「銭渡口覚」として、金銭払い先人名と金額を記載。		原	横	1	45
近世 643	F1	明治4(1871)未年正月吉日	目利銭扣	なし	なし	日月を追って、出費金額と支払い相手分を記載する		原	横半	1	45
近世 644	F1	明治4(1871)未年11月	前欠	欠	島田御役所	絞油税と絞油取扱新免許状の取得方法について記載する	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世 645	F1	欠(明治初期)9月30日	記	藤江戸下伝馬:八百屋清七	新兵衛	椎茸、するめ、松茸等の野菜類と、その金額を列挙し、文末に、総計134貫400文の受取を記載する。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45

地区番号:6 地区名:初倉

NO.8

分類:F-2 商業-金融

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世 646	F2	延享4(1747)卯年正月	前欠	北河原新田売主:名主:五郎右衛門外 証人2名	久二郎	田地の売買につき、年貢の納入や用水普請の扱いについて約定したもの。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 647	F2	文政10(1827)亥年12月	田地證文写	略	略	文化3寅年より慶応4辰年に至る売渡田地證文をまとめて記載する	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世 648	F2	天保3(1832)辰年2月	大坂講仕法之帳	金谷西照寺(表紙)	なし	籤数、会ごとの籤本数、当たり籤渡し金等を記載する。		原	縦	1	45
近世 649	F2	天保4(1833)巳年11月	落札金預り證文之事	北河原新田落札人:三郎兵衛、新兵衛 外1名	御連中様	医王寺の頼母敷講52両で落札する。今後、年利1割2分の利子でかけ続ける。質物は名田15石の地。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 650	F2	天保4(1833)巳年11月	覚	北河原新田 勘右衛門	医王寺講世話人中	金52両、頼母敷講落札調印の覚	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 651	F2	天保6(1835)未年正月吉日	永続講掛金之通	会席 源次郎	北河原新田 新兵衛	掛け金の請取が月を追って記載される	飯塚家文書 中河	原	横半	1	45
近世 652	F2	天保6(1835)未年3月吉日	大黒講小掛大掛並懸捨記 飯塚恒蔵義昌謹書之	なし	なし	文化13年から天保6年の期間、掛金と人名等を記載する	飯塚家文書 中河	原	縦	1	45
近世 633	F2	天保8(1837)酉年2月	覚	住吉新田 弥七	常蔵	金3両を要用にて借用。返金は暮までと約す	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 653	F2	天保9(1838)戌年正月吉日	永続講掛金之通	会席(講之) 孫治郎	北河原新田 新兵衛	月を追って掛金受取りの金子と人名を記載する。「岡部長源寺両講仕訳」も綴込み。	飯塚家文書 中河	原	横	1	45
近世 654	F2	天保12(1841)丑年5月	借用申金子之事	借主 大柳新田 持宝院	北河原新田 新兵衛	よんどころなき要用に月、1分1朱借用。9月までに返済を約す。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 655	F2	天保13(1842)寅年4月	前欠(詫び状)	平六、平三郎 外	名主:平七 外御役人中	医王寺の講で、平四郎が加入と落札の件につき不法をおこしたので、役所へ起訴されたが、改心を約して落着する。		原	状	1	45
近世 656	F2	天保13(1842)寅年4月	差出申詫一札之事	平六、平三郎、外親類	名主:平七 御役人中	医王寺講事で、掛金を怠り、村役人が出訴する。しかし、その掛金を怠ったことを詫び、出訴の取り下げを願ってゆるされる。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 657	F2	天保14(1843)卯年9月	借用申金子證文之事	上湯日村 伝作 外証人1名	切山村 幸吉	金5両要用につき、佐口谷・太々講の内より借用。利息年1割2分5厘、2年後の巳年正月晦日に返却を約す。	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世 658	F2	弘化2(1845)巳年正月吉日	新永続御掛金通	会所孫次郎	北河原新田 飯塚保助	発会の弘化2巳年より辰年までの元利金を各月毎にまとめて列挙する。	飯塚家文書 中河	原	横半	2	45
近世 659	F2	弘化2(1845)巳年5月28日	覚	色尾村 弥太郎	北河原新田 新兵衛	金5両、永続金として借用	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 660	F2	弘化2(1845)巳年5月	覚	借主:勘兵衛 外1名	常蔵	金15両、永続講金を借用・受取り。		原	状	1	45
近世 661	F2	弘化2(1845)巳年12月	借用申金子之事	八幡嶋新田 孫次郎	北河原新田 飯塚新兵衛	金25両、要用に差し支え借用。年利は1割。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 662	F2	弘化3(1846)午年12月	借用申金子證文之事	上湯日村借主:三郎左衛門 外証人2名	金谷宿:弥五右衛門	金25両、要用に付き借用。利息を含め、盆前7月に返済を約す。	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世 663	F2	弘化4(1847)未年12月	取替申田地證文之事	井口村證人 文右衛門 外1名	北河原新田 新兵衛	文化4年に田地を売渡し、すでに質流地になっている私方の田地を、増金をもって返却した上は、年貢上納は当方で行なうことを約す。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 664	F2	弘化4(1847)未年12月	田地書付之事	北河原新田 新兵衛	井口村 文右衛門	金子25両を借用して質地となっていた土地を、金子を支払って取り戻す。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 665	F2	嘉永5(1852)子年12月	覚	八幡嶋新田 孫次郎	北河原新田 新兵衛	借入金皆済を示す	飯塚家文書 中河	原	状	2	45

地区番号:6 地区名:初倉

NO.9

分類:F-2 商業-金融

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世 666	F2	安政6(1859)年7月11日	欠(廻状)	郡奉行所	村々庄屋・百姓	前欠、5両判で、100両につき105両に引換える。従来の金貨は貯え置かず速やかに新金貨と交換するように。	増田仁一家文書、湯日	原	状	1	45
近世 667	F2	元治元(1864)甲子年盆月16日	万人講並買場扣長	北河原新田若者連中(裏表紙)	なし	万人講の項は、「覚」として、それぞれの人物が提出した金銭を記入。買場扣は、購入品や支払い金額を記載。	飯塚家文書中河	原	横	1	45
近世 668	F2	慶応3(1867)卯年12月	書付一札之事	上湯日村金子受取人:仁右衛門外1名	同村 半平、弥七	年貢書入用に差支え金子借用	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世 669	F2	欠(江戸時代)1月21日	(書状)	上湯日村 滝伝作	戸塚善右衛門	馳走のお礼と、無尽金掛け不足の件で困っていることを伝える	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世 670	F2	欠(江戸時代)子年2月	証文之事	欠	欠	1、暮らし向きに困り内密に金子借用の件について、2、倅勝次郎の不行跡の立ち直りの節は取り成し依頼の件について、述べる。	飯塚家文書中河	原	状	1	45
近世 671	F2	欠(江戸時代)4月20日	覚	三郎兵衛	保助	金子送り状(使者に持たせて)。	飯塚家文書中河	原	状	1	45
近世 672	F2	欠(江戸時代)午年8月27日	覚	牛尾村 権右衛門	北河原村	金55両請取の覚え	飯塚家文書中河	原	状	1	45
近世 673	F2	欠(江戸時代)亥年8月	覚	孫次郎	組合 小役人中	金1両を島田宿にて取替え。上川原、谷口、大柳、孫次郎分の内訳金額を示す。	飯塚家文書中河	原	状	1	45
近世 674	F2	欠(江戸時代)子年11月28日	覚	金谷名主 惣兵衛 惣代 作左衛門	下川通村々惣代 八幡島新田名主 拾蔵	金40両入用に付き借用		原	状	1	45
近世 675	F2	欠(江戸時代)巳年極月16日	覚	孫左衛門	三郎左衛門	金子32両の受取証	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世 676	F2	欠(江戸時代)12月辰年	借用申金子証文之事	上湯日村 借主 三郎左衛門	金谷 文右衛門	金10両急用につき借用、返済日は、元利共残らず大晦日限りを約す	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	45
近世 677	F2	欠(江戸時代)	覚	略	略	金子、米俵等の請取証文	飯塚家文書中河	原	状	43	45
近世 678	F2	欠(江戸時代)	他借入口	なし	なし	借入金子と、その氏名を月順に記載。委細は不明。		原	横	1	45
近世 679	F2	欠(江戸時代)	借用申金子之事	なし	なし	要資金に差支え金子借用、利息は月1割、質物は田地(金子額、田地反別の記載はなし)。	飯塚家文書中河	原	状	1	45
近世 680	F2	明治元(1868)辰年12月	売渡申田地証文之事	田地売主:七右衛門 外2名	村地支配人:次郎兵衛 外1名	田地7畝20歩を代金11両にて売渡し(年貢諸役に差支えて)。		原	状	1	45
近世 681	F2	明治3(1870)庚午年8月	借用申金証文之事	なし	福井金次郎様御用人中	当秋の急破普請の資材仕入金に困り、金子借用、その返済は本年11月と約す。	飯塚家文書中河	原	状	1	45
近世 682	F2	明治4(1871)辛未年9月23日	覚	大和屋勘兵衛母さよ	北河原新田 飯塚純次郎	金3両借用、返済は10月末とする。	飯塚家文書中河	原	状	1	45
近世 683	F2	明治5(1872)年3月	借用申金子証文之事	借主:忠七 外1名	純次郎	要資金に困り、5両を借用、質地は反別5畝歩、年利1割5分。	飯塚家文書中河	原	状	1	45
近世 684	F2	明治6(1873)酉年11月	借用申金子証文之事	南原村借主:小七 親類証人 平蔵	北河原新田 飯塚新兵衛	金100円、要資金に差支え借用	飯塚家文書中河	原	状	1	45
近世 685	F2	明治6(1873)酉年12月	拾ヶ年季相渡申田地証文之事	八幡島新田地主 飯塚東一郎、親類証人 八木勘五郎	杉本瑤高	年貢上納に差支え、金357円借用、担保の土地:反別1町3反2畝21歩の地券証代価214円13銭。	飯塚家文書中河	原	状	1	45
近世 686	F2	明治8(1875)年4月	田地売渡証文之事	田地売主:飯塚純次郎	中里村:山田代次郎	田地1反歩を担保として、20円を3ヶ年間借入れ、金額を払い戻した時は田地請け返しを約す	飯塚家文書中河	原	状	1	45

地区番号:6 地区名:初倉

NO.10

分類:G-1 交通・通信-宿駅

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世 687	G1	天保14(1843)卯年7月吉日	天保13寅年度廻金目録見卯春定式御休泊付出張	北河原新田:飯塚新兵衛義昌	なし	川越し(役人)の宿泊、休息と、その世話係を記載	飯塚家文書 中河	原	横	1	45
近世 688	G1	欠(江戸時代)	前欠(人馬差出し)	欠	欠	市左衛門、甚十郎、藤次郎が東海道筋巡見に付き、各村・宿共に、人馬・川渡しに遅滞なきよう取り計らうこと。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 689	G1	欠(江戸時代)	道中案内	なし	なし	日光道中の越ヶ谷から野本までの宿間の里程等を示す	飯塚家文書 中河	原	状	1	45

分類:G-2 交通・通信-助郷

近世 690	G2	天保11(1840)子年7月	乍恐以書付奉申上候	小笠原信助代官所北河原新田勘兵衛、新兵衛、五郎右衛門、三郎右衛門	地方御廻り 今井太郎九郎様、地方御掛 立石伝八郎様	北河原新田村が、他近村よりはるかに難儀の状態にあることを述べ、加助郷に指定されることのないよう訴える。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
-----------	----	----------------	-----------	----------------------------------	---------------------------	---	-------------	---	---	---	----

分類:G-4 交通・通信-通信

近世 691	G4	欠(江戸時代)戊年10月12日	覚	嶋田宿名主:九郎次、同伊右衛門	谷口村より川尻村まで村々名主中	勘定組頭羽田龍助様御付添坂台三郎様が来る亥の年春に定式普請目論見のため来村する。ことを廻状にて伝える。	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 692	G4	欠(江戸時代)戊年11月19日	欠(廻状)	御役所	谷口村受取 継立、大柳新田から八幡嶋新田へ	古金銀の所持者にたいして、その引換えの期限(来る亥年)を示す。		原	状	1	45
近世 693	G4	欠(江戸時代)12月21日	欠(先触れ)	相川村役人	北河原新田御役人	御普請役様より同伝一郎様行きの御用状(御用箱)受取の確認	飯塚家文書 中河	原	状	1	45
近世 942	G4	明治初期3月7日	廻状	改正係	船木、大柳、中河、阪本、下湯日、上湯日の正副戸長	当出張所は今10日限りで当地を引き払いとなる。この日迄に収穫の請書を提出のこと	飯塚家文書 中河	原	状	1	45

分類:H-1 水利・土木-水利

近世 694	H1	宝暦11(1761)巳年6月	なし(御尋に付書上)	北河原新田	大草太郎左衛門御役所	大井川通り村付き堤の規模、用途の資材、その外、火樋、溜井等について記載	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 695	H1	寛政元(1789)酉年7月	大井川通御普請諸色当時買値段書上	大井川通西側村々	野田松三郎、山口茂右衛門御役所	川普請に必要な、沈棒、雑木数、大工人数、大聖牛等の要材を書き上げる。	常設展示室に 出展中	原	縦	1	46
近世 696	H1	文化11(1814)戌年	(御防諸色値段被仰付候-後欠-)	大井川西側通村主	なし	堤防修築のための材料と金子を書き上げ村請けを承諾する。		原	縦	1	46
近世 697	H1	文政7(1824)申年正月	御普請土方扣帳 北河原新田	なし	なし	大井川水防に付き、各村々の普請箇所分担を記載する		原	横	1	46
近世 698	H1	文政10(1827)亥年8月	仕越御普請出来形帳写 北河原新田	御普請役 河野三木助 湯川大一郎	なし	入用資材、費用等を書き、村前の控欠所の急場普請の出来上がり報告		原	縦	1	46
近世 699	H1	文政11(1828)子年10月	乍恐以書付奉願上候	大井川西側通村々 名主	欠	大井川西側の定式御普請は江戸遠州屋弥右衛門が請負っていたが、支障をきたすこと甚だしいので、村請にしたい。	飯塚家文書 中河	原	綴り	1	46
近世 700	H1	文政12(1829)丑年2月	当春定式川除御普請出来形帳 北河原新田	北河原新田名主:五郎右衛門、藤右衛門外 三役	御普請御役人中	丑の春の普請が完了。その時の材料、人夫、大工等を、堤切所の間数と共に報告する。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 701	H1	文政13(1830)年正月	大井川普請場所書上	なし	なし	堤欠所と、それに必要な砂利、粗朶、大聖牛等を記載する。		原	横半	1	46
近世 702	H1	天保2(1831)年	卯春定式御普請置置書上帳 北河原新田	なし	なし	蛇籠の必要本数、大聖牛等書き上げ。		原	横	1	46
近世 703	H1	天保4(1833)年2月	当巳春定式御普請置置書上帳	なし	なし	大聖牛、蛇籠、沈棒等、普請に必要なものが、月日順に記載される。		原	横	1	46
近世 704	H1	天保5(1834)午年	申春定式御普請人足賃控	なし	なし	必要経費が月日を追って記載される。		原	横	1	46

地区番号:6 地区名:初倉

NO.11

分類:H-1 水利・土木-水利

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世705	H1	天保7(1836)申年2月	当申春川除御普請出来形帳 北河原新田	北河原新田名主:三郎兵衛、五郎 右衛門、外三役	中泉御役所(平岡熊太郎代官 所)	大井川通北河原新田の堤、川除普請が完了する。その時の 欠所と入用材料を書付ける。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世706	H1	天保7(1836)申年4月	乍恐書付を以御届奉申上候	なし	御役所	堤欠所、竈出、大聖牛が大雨のため、大井川出水にて流失 したことを書き上げ。	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世707	H1	天保7(1836)申年7月	前欠(大井川通普請場)	与頭:新兵衛、百姓代:勘兵衛 (後欠)	欠	北河原新田は担当する大井川堤長さ、欠所を記載。	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世708	H1	天保7(1836)年9月	当申秋水御防書上帳、北河原新田	北河原新田名主:三郎兵衛、組 頭:新兵衛、外三役	中泉御役所	普請に必要な材料、人足を書付ける	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世709	H1	天保7(1836)年8月	申穉(秋)急水留御普請仕様 八幡 島新田	なし	なし	当申秋、八幡島新田内にて急な川除普請が必要となり、そ の費用、材料等を書付ける。(下書)	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世710	H1	天保8(1837)酉年正月吉日	御普請銭払控帳	なし	なし	日を追って、払う金銭と、その支払い方の組を記載する		原	横	1	46
近世711	H1	天保8(1837)年2月20日	当酉春定式御普請日々置範遣方書 上帳	なし	なし	表紙に、「2月20日八幡島新田泊、明21日横岡村泊、日日 出来ばえ見分相済御勘定佐久間忠兵衛殿」とあり。		原	横	1	46
近世712	H1	天保8(1837)年3月吉日	酉御普請仕場秘書 飯塚常蔵	なし	なし	普請につき、入用金とその品目を記載	飯塚家文書 中河	原	横半	1	46
近世713	H1	天保8(1837)年7月17日	懐中控	なし	なし	大井川堤切所、各番出し地形等を記載		原	横半	1	46
近世714	H1	天保8(1837)酉年9月	当酉秋急場川除御普請日々置筆書 上帳	北河原新田名主五郎右衛門、外 三役	御普請御役人	月日を追って、蛇筆等の要材を記載		原	横	1	46
近世715	H1	天保8(1837)酉年12月	大井川通私共村方定式御普請 前原八三郎様請書	北河原新田 村役人	なし	大井川普請につき竹木等の買入も粗末なものではよくない、よく吟味するようにと、前原氏から普請の在り方について 注意があったので村人全員が気を付ける。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世716	H1	天保9(1838)戌年正月吉日	当戌春御普請日書帳	北河原新田会所	なし	普請担当の組と筆数を月日順に記載する。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世717	H1	天保9(1838)戌年2月	当戌春定式御普請出来形帳 榛原郡谷口村	谷口村名主:七太夫、組頭:九郎 兵衛、喜太夫、百姓代:勘助	御普請御懸り御役人様	普請の用材とその費用、人足、大工等の手間賃を記載する		原	縦	1	46
近世718	H1	天保9(1838)年3月9日	当戌春定式御普請雑用帳	なし	なし	月日順に、必要な材木の本数と普請分担者名を記載する。		原	横	1	46
近世719	H1	天保10(1839)年6月	当亥夏急場御普請出来形帳 北河原新田	なし	なし	当村、普請による堤の必要資材、入用金等を記載。、※虫 食い著しい	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世720	H1	天保9(1838)戌年7月	欠(大井川通水防普請の件)	大井川通北河原新田	なし	村前の水防普請が完了したので、その仕様内容を記し、報 告したもの。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世721	H1	天保9(1838)戌年10月	乍恐以書付奉申上候	北河原新田名主:五郎右衛門、外 三役	御普請御掛り御役人中	北河原新田境より八幡嶋新田境までの堤間数を書上。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世722	H1	天保9(1838)戌年10月	乍恐以書付奉申上候	北河原新田名主:五郎右衛門、与 頭:新兵衛、百姓代:勘兵衛	直井倉之助	北河原新田の普請所堤間数書上の件について記載する	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世723	H1	天保10(1839)亥年正月	大井川通西側当村前地内水御防御 普請諸色人足遣方取調帳	名主:三右衛門、勘兵衛、新兵衛	長谷川與兵衛	人足、大聖牛、河杵、石持人足等、大井川水防普請につ き、必要数を記載	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世724	H1	天保10(1838)亥年2月	欠(大井川通北河原新田地内堤通 普請報告)	小笠原信助代官所北河原新田 勘兵衛、新兵衛、五郎右衛門、三 郎兵衛	御普請御掛り御役人中様	大井川堤普請の具体的な要用を記し、その完成を報告したも の	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46

地区番号:6 地区名:初倉

NO.12

分類:H-1 水利・土木-水利

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世 725	H1	天保10(1839)年3月10日	当亥春御普請諸受割合帳 (西側通村々控)	なし	なし	一泊した代官やその他の人物、氏名、提出金額と、その村名を記載する		原	横	1	46
近世 726	H1	天保11(1840)子年	奉請取金子之事	太田備後守領分 遠州榛原郡上 河原新田組頭:文右衛門	小笠原信助様御役所	金子請取、大井川川除普請諸色代の請取について記載する		原	状	1	46
近世 727	H1	天保12(1841)丑年臘(12)月吉日	寅春御普請錢払帳 北河原新田	飯塚新兵衛	なし	日月を追って、出費金額、出費先を記載する。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世 728	H1	天保14(1843)年正月吉日	卯春御普請雑記帳	飯塚新兵衛	なし	臨時普請の請願、川除金子の請取等、「御用留」的に諸事項を記載している。一種の備忘録。	飯塚家文書 中河	原	横半	1	46
近世 729	H1	天保15(1844)辰年正月	当辰春定式川除御普請出来形帳 榛原郡北河原新田	北河原新田名主:三郎兵衛、組 頭:新兵衛、百姓代:勘兵衛	御普請御掛御役人中様	定式川除普請に伴う雑木、大聖牛、大工、人足の数と代金(永)を書き記す。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 730	H1	弘化2(1845)巳年2月25日	御普請方並地方諸禮雑費、西側通 村々	なし	なし	西側通り各村への割当金、普請における各人への割当金などを記載する。		原	横	1	46
近世 731	H1	嘉永元(1848)申年	当申秋水御防諸色人足取調帳 谷口村	谷口村名主:伝十、外三役	御普請御掛御役人中様	谷口村に接する大井川の水当たりが強いので、水防普請を願い出て許可される。その使用材料、人足費用等を記載する。		原	縦	1	46
近世 732	H1	嘉永3(1850)戌年9月	乍恐以書付奉願上候	惣兵衛 外4名	御普請役お掛り:村井合之助 外3名	当戌7月26日、大風雨、出水にて所々流失する、村永続のために普請のお願いをする。	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世 733	H1	安政6(1850)未年	未春御仕様帳(下書) 北河原新田	なし	なし	北河原新田の普請箇所(大井川通)の大聖牛、蛇籠、人足等にかかわる必要経費を書付ける。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 734	H1	欠(江戸時代)1月	奉請取金子之事	北河原新田百姓代 勘兵衛、外3 名	中泉御役所	金34両1分、永204文8分、水防諸色代、大工賃請取の件につき記載。		原	状	1	46
近世 735	H1	欠(江戸時代)酉年正月	土方通 上吉田組 北川原新田御 場所	なし	なし	普請場所は長×高×横を、また、人足賃とその支払い相手を記載する。		原	綴り	1	46
近世 736	H1	欠(江戸時代)4月4日	大井川通御普請の件	水利路程掛り	色尾村より住吉新田迄各村々 名主中	大井川通の普請につき、その地元の村々へ水下の村々から人足を差し出す(助け合いのため)ことを示談で決定する。		原	横	1	46
近世 737	H1	欠(江戸時代)卯年7月29日	借用申金子之事	金谷河原町借主:名主惣右衛門 外3名	大井川西側通村々 御役人中	普請方の差出金に困り、50両を借用。8月末日迄に返済を約束		原	状	1	46
近世 738	H1	欠(江戸時代)丑年8月吉日	覚	右村(11ヵ村[略])名主・組頭	中泉御役所	大井川西側通自普請の報告の件につき記載		原	状	1	46
近世 739	H1	欠(明治初年)9月10日	覚	嘉吉郎	北河原新田 純次郎	合計:小竹85本、大竹249本分、この勘定を催促する	飯塚家文書 中側	原	状	1	46
近世 740	H1	欠(江戸時代)極月16日	未冬御普請日々万帳	なし	なし	日ごとに、各組の分担箇所を書付ける		原	横	1	46
近世 741	H1	欠(江戸時代)	出来形大下	なし	なし	堤欠所の用材を記載		原	縦	1	46
近世 742	H1	欠(江戸時代)	欠(大井川通普請関係文書)	なし	なし	要材の数とその経費、人足賃銭等を記載する。		原	横	1	46
近世 743	H1	欠(江戸時代)	当未春定御普請出来形帳 北河原新田	なし	なし	大聖牛に必要な雑木、竹の寸法、費用等を記載する。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 744	H1	欠(江戸時代)	大井川普請関係書類	なし	なし	堤切所の規模、砂利、人足の数・量、入用金等を記載する。		原	縦	1	46

地区番号:6 地区名:初倉

NO.13

分類:H-1 水利・土木-水利

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世 745	H1	欠(江戸時代)	上御場所ヶ所付帳	なし	なし	大柳堤の切所の規模、作業に要する資材を記載する。		原	横半	1	46
近世 746	H1	欠(江戸時代)	大井川通普請関係書類 北河原新田	なし	なし	普請に要する資材、人足、費用を記載する。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 747	H1	欠(江戸時代)	欠(川普請関係文書)	欠	欠	堤の四番出し、五番だし……と各番ごとに沈杵、大聖牛の 必要資材を記載する		原	横	1	46
近世 748	H1	欠(江戸時代)	欠(川普請関係文書)	なし	なし	人足賃、用材費、人夫世話料等を記載する。		原	横	1	46
近世 749	H1	欠(江戸時代)	欠(川普請関係文書)	なし	なし	大聖牛に要する資材、費用、人足数等を記載する。		原	縦	1	46
近世 750	H1	欠(江戸時代)	覚、北河原新田	なし	なし	組合塚樋、村々分担金額等を記載する。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 751	H1	欠(江戸時代)	欠(川普請関係文書)	なし	なし	月日順に、川普請の作業工程、作業分担者等を記載する。		原	横半	1	46
近世 752	H1	欠(江戸時代)	欠(金銭支出簿)	なし	なし	月日を追って川普請の出費額と該当人物名を記載する。		原	横	1	46
近世 753	H1	欠(江戸時代)	欠(川普請仕法帳)	なし	なし	木材等の必要本数が各場所ごとに記載される		原	横	1	46
近世 754	H1	欠(江戸時代)	欠(大井川普請関係帳)	なし	なし	堤欠所の規模と用材を記載する。		原	縦	1	46
近世 755	H1	欠(江戸時代)	欠(川普請関係メモ)	なし	なし	普請に必要な木材、本数、寸法を記載する。		原	横半	1	46
近世 756	H1	欠(江戸時代)	欠(大井川水御防ノ件)	なし	なし	大井川水当ての際の御防ぎ人足の村割当ての書付け。初 倉6ヶ村と他5ヶ村。		原	状	1	46
近世 757	H1	欠(江戸時代)	欠(普請用材書上)	なし	なし	蛇籠とその内訳を、月日を追って記載する。		原	横	1	46
近世 758	H1	欠(江戸時代)	御普請諸法	なし	なし	蛇籠、大聖牛、沈杵等の単位、算法や買入の値段が記載さ れる。		原	縦	1	46
近世 759	H1	欠(江戸時代)	欠(堤防普請について)	なし	なし	大井川通北河原新田の堤欠所、切所と入用資材、金子を記 載する。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 760	H1	欠(江戸時代)	欠(河川欠所等書上)	なし	なし	東萩間村、北河原新田等の河川の欠所、切所など書き上げ る(前・後欠)。		原	縦	1	46
近世 761	H1	欠(江戸時代)	亥春御普請金高扣	欠	欠	谷口村、初倉村、大柳新田、上河原・北河原新田、八幡嶋 新田、大日村、高島村川尻村の普請金高を記載する(後 欠)。	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世 762	H1	欠(江戸時代)	乍恐書付ヲ以奉願上候	欠	欠	榛原郡金谷村地内の普請所において、水当りの強い箇所が あり、この場所の扱いについて嘆願する。	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世 763	H1	欠(江戸時代)	人足覚	なし	なし	400間用水の人足賃と人足名を記載する(午5月～7月 迄)。	飯塚家文書 中河	原	状	3	46
近世 764	H1	欠(江戸時代)	なし(堤坪数書上)	なし	なし	各番号ごとに、堤の横、縦の長さ、反別を記載する。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46

地区番号:6 地区名:初倉

NO.14

分類:H-1 水利・土木-水利

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世 765	H1	明治3(1870)年正月15日	午春定式御普請蛇籠遣日玉帳 北河原新田	なし	なし	沈杵、古籠、大聖牛等、必要品を書き出す。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世 766	H1	明治3(1870)年2月	各村水防勤高改正分(写し)	なし	静岡水利方	各村水防勤高改正高について、八幡嶋新田外17ヶ村を記載する。		原	状	1	46
近世 767	H1	明治3(1870)午年10月	借用申金子證文之事	北河原新田借主:組頭 純次郎	なし	借用證文の下書き。金額の記載はない。普請用の資材購入のために金子を借用したもの。	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世 768	H1	明治4(1871)年正月17日	未春御普請木諸色会所分請取帳 北河原新田御揚所	なし	なし	月日を追って木の長さ、本数、用途等を記載する。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世 769	H1	明治4(1871)未年正月吉日	御普請銭払控帳 北河原新田	なし	なし	明治3年午から未年に至る普請入用銭とその内訳を書付ける。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世 770	H1	明治4(1871)辛未年正月	蛇籠村方請並造賃渡方払帳	なし	なし	蛇籠本数とその分担者、金子払い先とその金額を記載する。		原	横半	1	46
近世 771	H1	明治4(1871)未年2月吉日	御普請銭払扣帳式番	なし	なし	「覚」として、金銭受領の金額と差出し人物名を記載する。「人足払先覚」として、支払先(村組)と金額を記載する。		原	横	1	46
近世 772	H1	明治4(1871)年5月	未春再御普請人足賃銭払帳 御場所	なし	なし	月日を追って、分担の組、人足賃銭、人足数を記載する。		原	横	1	46
近世 773	H1	明治4(1871)未年12月	割合取引帳 飯塚扣	なし	なし	未12月春残金、夏水防、2度目納入請金、跡(後)拝借金について、初倉のみでなく、金谷・島田宿も含め範囲に記載する。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世 774	H1	明治5(1872)壬申年2月15日	申春御普請人足扣帳 北河原新田	なし	なし	月日を追って、人足の人名と人数を記載する。作業に要する用材の本数、長さ等を記載する。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世 775	H1	明治5(1872)申年5月	明治元年辰より同午迄3ヶ年御普請 入費書上帳扣、北河原新田	同村役人	浜松県御庁	大井川堤防水除入費(人足、賃米、永等)を明治3年まで書付ける。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 776	H1	明治5(1872)壬申年7月	水防人足並籠詰通、当村御場所木 方留方両組	なし	なし	使用材料、費用、人足等を月日を追って記載する。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 777	H1	明治5(1872)年	御普請方借借金利足内返金分扣	飯塚純次郎(扣)	なし	明治5年12月5日は明治6年1月31日。村入用より取立て、返済金額が、月日順に返済先と共に記載される。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世 778	H1	明治6(1873)酉年4月吉日	御普請諸色人足日記覚帳	北河原新田 飯塚知廉(裏表紙)	なし	大聖牛、大橋杵等、使用材を記載する。資金は、両・分、円・銭両様で記載している。	飯塚家文書 中河	原	横半	1	46
近世 779	H1	明治6(1873)年12月	癸酉貢米蔵入帳	なし	なし	納めるべき米穀とその人物名を列挙する		原	横	1	46
近世 780	H1	欠(明治初年)	大井川見張番人休日泊ヶ付書上	なし	なし	1日を朝、昼、夕と分けて、1月19日から2月9日まで記載	飯塚家文書 中河	原	綴り	1	46

分類:H-2 水利・土木-土木

近世 781	H2	天保11(1840)子年5月	欠(筏鑑札調べ)	北河原新田名主:新兵衛、外3名	御普請御役人	竹筏、木筏の鑑札枚数の調査につき報告	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世 782	H2	明治4(1871)未年3月吉日	筏乗り下ヶ人足扣	なし	なし	作業期間と人足数を記載する。		原	横	1	46
近世 783	H2	明治元(1868)辰年霜月15日	竹木桴請取控帳 北河原新田	なし	なし	桴の乗子、竹木の寸法、本数等を記載する。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46

地区番号:6 地区名:初倉

NO.15

分類:I-1 災害・救恤-災害

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世 784	I1	天保11(1840)子年7月27日	穴坪請取帳 急場願書奥書添有	なし	なし	各組担当部所の穴の深さ、横長、坪数を記載(北河原新田地内の川除普請所) 「急場願書」は、村内に大雨出水、堤切に付き、至急の処置を嘆願する。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世 785	I1	安政5(1858)午年6月	乍恐以書付奉願上候	上湯日村小前惣代長百姓:藤兵衛外1名	欠(虫喰い)	去る12月、大出水にて田方に石砂が入り荒地化したので、その御見分と貢租の引下を願う。		原	状	1	46
近世 786	I1	安政6(1859)年6月17日	覚(廻状) (御用留の断片)	織本兵八	南菊川外5ヶ村。留めは上湯日村	去る5月29日の出水で、田方が荒地になった分は届け出る	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	46

分類:I-2 災害・救恤-救恤

近世 787	I2	万延2(1861)酉年2月	乍恐以書付奉願上候	上湯日村前惣代:藤兵衛 外2名	加藤儀左衛門	去る申年5月11日～15日に大井川大出水、鎌塚の3町8反の土地は9分通り川成となる。自普請の力がないので、川除普請として経済的援助を願う。	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	46
近世 788	I2	明治3(1870)午年3月8日	御救夫食米割渡方払帳 北河原新田村控	なし	なし	夫食を渡した村内の窮民の名と米穀量及び金額を記載する。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46

分類:J-1 教育・文化-教育

近世 789	J1	文政3(1820)辰年5月	隅田川御手本	北河原 飯塚氏(裏表紙)	なし	手習い本	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 790	J1	天保10(1839)亥年	各頭字、(飯塚氏)	北河原新田 飯塚岩吉郎隆昌	なし	字の練習帳	飯塚家文書 中河	原	横半	1	46
近世 791	J1	天保13(1842)寅年8月	新粟百姓往来	北河原新田 飯塚岩吉郎(所有)	なし	天保13年に飯塚岩吉郎が筆写したもの	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 792	J1	嘉永元(1848)申年4月吉日	我流塵劫記	飯塚岩吉郎(裏表紙)	なし	算術問題を記載する	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 793	J1	明治19(1886)年	孝経	なし	なし	手習い本		原	縦	1	46

分類:J-2 教育・文化-学芸

近世 794	J2	嘉永5(1852)壬子年8月	心形刀流八陣之巻	心形刀流 大内与六左衛門	飯塚岩吉	免許皆伝(これは兄弟たりとも見せてはいけない、と記されている)	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世 795	J2	欠(江戸時代)	唐詩選	水野鉄造蔵書(裏表紙)	なし	五言絶句の詩を掲載する		原	縦	1	46
近世 796	J2	欠(江戸時代)	衆評春三題 句会	なし	なし	略		原	縦	1	46
近世 797	J2	欠(江戸時代)	欠	なし	なし	赤壁の戦い(208年)の物語	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世 798	J2	欠(江戸時代)	通俗三国志姓氏	なし	なし	本誌の項目を記載する		原	縦	1	46

分類:J-3 教育・文化-文化

近世 799	J3	文政4(1821)巳年6月11日	道中日記	なし	なし	旅先の宿泊所名、宿泊賃、宿間の距離を記載する		原	横半	1	46
近世 800	J3	慶応3(1867)卯年	昔今噺	なし	なし	江戸時代に出されたお触れ、世間話、うた等を収録したもの	増田仁一家文書 湯日	原	縦	1	46
近世 801	J3	欠(江戸時代)	売卜先生糠俵	なし	なし	酒飲が人に与える損得を述べる	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46

地区番号:6 地区名:初倉

NO.16

分類:J-3 教育・文化-文化

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世802	J3	欠(江戸時代)	欠(隨筆)	なし	なし	略		原	縦	1	46
近世803	J3	欠(江戸時代)	欠(算用仕法)	飯塚二代新兵衛	なし	冒頭に、「親の忠告を無視して学成らず、今老いて後悔している。それで算術を工夫して子孫に遺書する」とある。	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世804	J3	欠(江戸時代)	前欠・前田利長攻略記	なし	なし	徳川氏の前田利長攻略の戦記	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世805	J3	欠(江戸時代)	欠	なし	なし	浄瑠璃番付	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世806	J3	欠(江戸時代)	欠	なし	なし	横帳の断片を集めて綴ったもの。金銭支払い、字の練習書き等を綴る。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世807	J3	欠(江戸時代)	欠	なし	なし	新書太閤記(前・後) 写本	飯塚家文書 中河	原	綴り	1	46

分類:K-1 宗教・習俗・身分-宗教

近世809	K1	文政6(1823)未年10月	覚	大頭龍大権現神主 白松丹後守執事	欠	銅鳥居奉納のための寄付金100疋差上げの件。		原	状	1	46
近世810	K1	文政11(1828)子午9月吉日	御立願之事	なし	なし	天道宮、水天宮、三輪大明神等に餅、神酒、御幣を奉納。	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世811	K1	天保7(1836)申年2月15日	(内容)天照皇太神宮御本宮	なし	なし	標題のように書かれたお札		原	札	4	46
近世812	K1	安政5(1858)年	欠	金谷宿河原町京都知恩寺末寺専求寺	太田撰津守様領分甲賀郡之 廻外5名	本寺の檀家にはキリシタンもころび類族もないことを書上。	増田仁一家文書 湯日	原	状	1	46

分類:K-2 宗教・習俗・身分-習俗

近世813	K2	文政3(1820)寅年5月	菖蒲太刀祝儀受納帳	なし	なし	貰い受けた太刀の長さ、氏名とその居住地を列挙する。		原	横	1	46
近世814	K2	文政7(1824)甲申年8月28日	衣裳品数控	酒屋儀右衛門	北河原村御若衆様頭取孫兵衛	小供立役、立役、はんでん、羽織、袖なし、下着等の項目に分けて具体的に列挙する。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世815	K2	天保4(1833)巳年	三十六歌仙見立 三笠居役者評芝居番付表	板元:森屋治兵衛 山口屋藤兵衛 吉田屋小吉	なし	芝居番付は三十六歌仙とは紙質が異なり、時代は天保年間より後年のもの	飯塚家文書 中河	原	状	7	46
近世816	K2	安政4(1857)年正月	三都惣役者大見立	欠	なし	表の書き始めに、これまでの見立と異なり、給金、家号、俳名まで委しく記す、との注意書がしてある。		原	状	1	46
近世817	K2	欠(江戸時代)	呼出し三葉(長歌新詩)東風流 作	なし	なし	呼出し三番雙の歌詞を載せる	飯塚家文書 中河	原	縦	1	46
近世818	K2	欠(江戸時代)	狂言芝居番付表	欠	なし	※座元 森田(欠)	飯塚家文書 中河	原	ザラ紙	2	46
近世819	K2	明治3(1870)午年9月吉日	地藏日待入用帳	なし	なし	使用食品名とその代金、支払い方の名前等を記載する。		原	横	1	46
近世820	K2	明治6(1873)酉年1月	預り申金子證文之事	北河原新田金子預り主:田代三郎 左衛門	同村組頭;飯塚純次郎	金13両2分、講落札證文田5畝歩、1反歩	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世821	K2	欠(明治初年)	静岡行入用	なし	なし	岡部屋食代 川越し代等、出費金銭を記載する。		原	横半	1	46

地区番号:6 地区名:初倉

NO.17

分類:M 地図

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形態	数量	箱 番号
近世 822	M	明治4(1871)辛未年6月	なし(白山宮境内図)	北河原新田名主:田代三右衛門、 外三役	島田御役所	田地等を含め総坪数461坪	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世 823	M	なし(昭和戦前以前)	なし(榛原郡初倉地域地番地図)	なし	なし	地番を図示した地図;阪本83枚、湯日178枚、船木115 枚、大柳43枚中河37枚の計456枚		原	地図	456	57
近世 824	M	なし(昭和戦前以前)	なし(地番記入の地図) 縮尺1800分の1	なし	なし	初倉村坂本ノ1牧の原、初倉村坂本ノ2、初倉村湯日第1 号、第2号、第3号初倉村大柳新田、初倉村中川全 となっ ている。		原	軸	7	2階 書庫
近世 825	M	なし(昭和戦前以前)	初倉村耕地整理組合現形予定図	なし	なし	縮尺1200分の1		原	図	1	46

分類:X 家

近世 826	X	文政4(1821)巳年	道中懐中控日記	なし	なし	6月11日見付泊りから、大和多武峰、吉野を歩き塚から大 坂に入る。裏表紙に”おもしろの旅の空根の枕かな”とある。	飯塚家文書 中河	原	横	1	46
近世 827	X	文政12(1829)丑年8月吉日	懐中諸雑記	なし	なし	24日より書き出す。旅中の昼食代、宿泊先等を記載する。	飯塚家文書 中河	原	横半	1	46
近世 828	X	天保5(1834)午年正月	保養月概記	なし	なし	日記を兼ねて、月日順に、主として金子受領額とその人名を 記載する。		原	横半	1	46
近世 829	X	天保8(1873)酉年7月1日	書置之事	為五郎	御親類中	分家為五郎が借財の結果(大柳新田より100両)、家が傾 き、その打開もならず、家出を決意する。	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世 830	X	天保12(1841)年4月10日	欠(議定書)	飯塚太郎蔵	諸親類	太郎蔵の相続に付き、その田地、諸無尽等の配分を記す。	飯塚家文書 中河	原	状	1	46
近世 831	X	嘉永7(1854)年2月	欠《(大地震有……)と記載》	北河原新田 飯塚巖吉郎	なし	日記:正月1日より書き始め、地震のあった11月は、11月2 0日より記帳し地震(11月4日)の件はふれていない。他に、 「御用向諸役扣」等を掲載		原	横半	1	46
近世 832	X	万延2(1861)辛酉年正月吉日	万用日記帳	北河原新田 飯塚雅康	なし	1月1日～12月28日の日記 ※虫食い多分にあり	飯塚家文書 中河	原	横半	1	46
近世 833	X	文久4(1864)年正月1日	子日記覚帳 北河原新田 飯塚知康	なし	なし	文久4年正月、村中あいさつまわりから始まり、12月迄書付 ける	飯塚家文書 中河	原	横半	1	46
近世 834	X	欠(江戸時代)	(私信)	略	略	飯塚常蔵、飯塚新兵衛関係の私信。但し、ほとんどが新兵 衛に関わるもの。	飯塚家文書 中河	原	状	90	46

分類:Z 雑

近世 835	Z	欠(江戸時代)	(断簡)	欠	欠	普請関係(「表紙」外)		原	状	2	64
近世 836	Z	欠(江戸時代)	(断簡)	欠	欠	※上湯日関係文書		原	状	23	64
近世 837	Z	欠(江戸時代)	(断簡)	欠	欠	略		原	状	35	64
近世 838	Z	欠(江戸時代)	(断簡・その1)	欠	欠	略	飯塚家文書 中河	原	状	35	64
近世 839	Z	欠(江戸時代)	(断簡・その2)	欠	欠	略	飯塚家文書 中河	原	状	袋 一括	64
近世 840	Z	欠(明治時代)	(断簡・その3)	欠	欠	略	飯塚家文書 中河	原	状	袋 一括	64

地区番号:6 地区名:初倉

NO.18

分類:Z 雑

番号	分類	年号(西暦)干支年月日	標 題	差出人(役名・名前)	受取人(役名・名前)	摘 要	備 考	原本 コピー 写真	形 態	数 量	箱 番 号
近世 841	Z	欠(明治時代)	(断簡・その4)	欠	欠	略	飯塚家文書 中河	原	状	袋 一括	64
近世 842	Z	欠(明治時代)	(断簡・その5)	欠	欠	略	飯塚家文書 中河	原	状	袋 一括	64
近世 843	Z	欠(明治時代)	(断簡・その6)	欠	欠	略	飯塚家文書 中河	原	状	袋 一括	64
近世 844	Z	欠(明治時代)	(断簡・その7)	欠	欠	略	飯塚家文書 中河	原	状	袋 一括	64
近世 845	Z	欠(明治時代)	(断簡・その8)	欠	欠	略	飯塚家文書 中河	原	状	袋 一括	64
近世 846	Z	欠(明治時代)	(断簡)	欠	欠	※襖の下張りを剥がしたもの 紙の損失が著しい	増田仁一家文 書 湯日	原	状	箱 一括	58
近世 937	Z	欠(江戸時代)	(断簡)	欠	欠	※地域不明		原	状	11	64
近世 938	Z	欠(明治時代)	(断簡)	欠	欠	※地域不明		原	状	50	64